



秋田県指定天然記念物 「しだれ桜」の後継樹が里帰り

りんぼく
— 林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組 —

ポイント

秋田県大仙市にある県指定天然記念物「しだれ桜」の後継樹の苗木が国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター(茨城県日立市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、所有者から増殖の要請を受けた秋田県大仙市の「しだれ桜」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和4年4月8日(金) 13時00分

場所：秋田県大仙市協和船岡字宇津野 249 【グループホーム桜木荘(旧豊島家)】

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 久保田 権(くぼた ごん)

担当者： 収集管理係 織邊 俊爾(おりべ しゅんじ)

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 加藤 智子(かとう ともこ)

Tel : 019-688-4518 Fax : 019-694-1715

※取材される方は、事前に上記連絡先にご連絡をお願いします。

本資料は、秋田県政記者クラブ、岩手県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センター^{りんぼく}では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 306 件の要請があり、229 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 2 年度末現在）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回、里帰りするのは秋田県指定天然記念物の「しだれ桜」です。

この「しだれ桜」の樹齢は推定 400 年、樹高が約 10m、目通り幹周囲が 5.5m で秋田県内最大・最古の名木として 1953 年に県の天然記念物に指定されました。かつて、この「しだれ桜」を中心に、神功皇后伝説を有する船霊神社^{ふなだま}までの沿道両側 200m にわたり桜並木が続き、秋田藩の重臣が桜狩りをした所と言われており、古の面影を伝えているシダレザクラです。

この貴重な遺伝子を残すため、2016 年 4 月に所有者から、林木遺伝子銀行 110 番の申請を受けた東北育種場が 2016 年 12 月にこの木から枝を採取し、つぎ木による後継樹を育成しました。

今年は県の天然記念物の指定を受けて 70 年を迎えます。里帰りするのは、「分身」にあたりともいえる慶事であり、管理にあたっている地元でも今まで以上に「心の拠所」となるご神木に期待を寄せているところです。

図、表、写真等



しだれ桜の原木
大仙市提供



「しだれ桜」の枝をつぎ木
して育てた後継樹